

# 牛海綿状脳症(BSE)について

表 1. 主要国の年別狂牛病発生状況

国/年	1993以前	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
ベルギー	0	0	0	0	1	6	3	9	38
フランス	6	4	3	12	6	18	31	161	202
ドイツ	1	3	0	0	2	0	0	7	117
イタリア	0	1	0	0	0	0	0	0	37
日本	0	0	0	0	0	0	0	0	2
オランダ	0	0	0	0	2	2	2	2	13
イギリス	119,364	24,436	14,562	8,149	4,393	3,253	2,300	1,443	523

(2001.11.21 現在)

牛海綿状脳症(BSE)とは、一般的に狂牛病と呼ばれ、今から十五年前(一九八六年)イギリスで初めて発見され、その後ヨーロッパの国々でも発生がみられている牛の病気です。(表1)

日本でも、今年九月に北海道で発見され、以来畜産業(乳用、肉用)のみならず、それに係わる流通業、小売業者に大きな影響を与えています。そこで、なぜBSEがこのように大きくとりあげられるのかを、昨年発生した口蹄疫と比較して考えてみました。

**口蹄疫とBSEの比較(表2)**

口蹄疫は、伝染力が強い、ため、厳しい移動制限を行い、徹底した消毒が実施されましたが、BSEは牛から牛への感染はありません。ただ、感染牛の脳、脊髄、目などを含む、肉骨粉を牛に与えることで伝播しますので、このことさえ注意すれば、まん延の防止は容易なのです。

しかし、やっかいなのは、症状をあらわすまでの潜伏期間が非常に長く、検査をするために脳を使わなければならないため、口蹄疫の時のように血液を検査して診断することが難しいのです。つまり生前診断が困難なのです。

## 不明なこと多いBSE

BSEにかかった牛の脳はスポンジ状に穴だらけになることから「牛海綿状脳症」と名付けられました。これとよく似た人の病気(変異型クロイツフェルト・ヤコブ病)が一九九六年にBSEが大発生していたイギリスで見つかり、BSE感染牛を食べたことが原因ではないかと問題になっているのです。BSEの原因である「プリオン」は、ウイルスや細菌のように研究が進んだ病原体ではなく、まだ不明なことも多いようです。

表 1. 口蹄疫と狂牛病の比較

	口蹄疫	BSE
潜伏期間	数日	数年
病原体	ウイルス	プリオン
伝播力	強い	なし
検査材料	血液	脳
人への感染	ない	可能性あり

## 食べても安全なの?

このようなことから、十月十八日以降、食肉として出荷された全頭についてBSEの検査が行われています。前の

述べた部位を含まない食品は、危険部位の対象とはされておりませんので、皆様が食べても大丈夫です。

## BSEこれから

日本では、年間約百三十万頭の牛が食肉として出荷されていますが、全頭検査開始後十一月三十日までに、二頭が陽性と確認されました。(十二月三日現在)

また、表1のように、各国の発生状況はイギリスのように次第に減少している国とフランスやドイツのように近年発生が増加している国々があります。

日本の場合、感染源と見られているイギリス産の肉骨粉の輸入量がフランスやドイツの三万トンと比較して数百トンと桁数が違うことから、日本での発生は小規模に留まるのではないかと予想する研究者もいるようです。

この病気がなぜ日本で発生したのが解明され、早く終息することを願っています。

(獣医師 濱田一人)